第 322 号 昭和 47 年 4 月 10 日発行 (毎月 10 日発行) 定価一部 100円

深田久弥著 「中央アジア探検史」を読

ジアの探検記、旅行記の類を読破し、 かりそうです。まず手当り次第に探検 ジアに手を伸ばしていますが、まだそ 手紙には、こんなことが述べられてい る昭和三十五年十月十八日附の同氏の 判らないが、いま私の手許に残ってい 亡くなる頃にはわが国でも屈指の権威 この手紙はよく示している。それから マラヤ研究が進む過程で、自然に中央 記を読んでいます」。 同氏の 精細なヒ るようになるには、まだまだ年月がか の方の知識が乏しく、この方で威張れ アジアの魅力に引きこまれたことを、 余年、朝に夕に同氏は尨大な中央ア 深田さんの中央アジア探検史の研究 いつ頃始められたのか、定かには 「近頃ヒマラヤだけでなく中央ア

ろう。当時同氏は既に『シルクロード』 集の計画された頃(昭和四十年)であ 企図されたのは、既に西域探検紀行全 にまでなられたものと思う。 深田さんが中ア探検史を纒めたいと 月 深田さんらし い書 ポーロ、シュラーギントワイト等二十

一部の近代探検史上の人物として

これで第一部をなしてい

中ア探検史に大きな期待をかけてい き方で、私は将来刊行されるであろう はこびに至ったことは、故人を知る一 た。同氏の急逝によって一頓挫をきた 人として喜びに堪えない。 したかに思えた本書が、この度上梓の 本書は探検史とはいうものの、所謂

前の叙上の人物は、他に法顕、マルコ る困難があったかと思う。近代探検以 史以来中央アジア探究に至大な影響の な叙述から考えて、調査には想像に余 に興味深く述べられており、その精確 どの大遠征、大旅行が、概ね一人一章 か、張驀であるとか、玄奘や高仙芝な 特色がある。古代からの記述であるか ん一流の評価が各章に漲っている点に を中心に叙述したものであり、深田さ あった人物を拉し来たって、その人物 編年体に叙述されたものではなく、 当然アレキサンダー大王であると 日の目を見ることはなかったろうと、 くしては、おそらく本書はかかる形で 協力した白水社の藤原一晃氏の尽瘁な は特筆すべきもので、同氏及び熱心に る整理校合と共に、この長沢氏の努力 った未完の部分である。本書全篇に亘

をとり、 の暗号をKAとあるのは誤りでAKが 章三三七頁に、クリシュナ(Krishna) にして、はじめて出来得たことと思う。 シルクロードの旅にも同行した長沢氏 敬意を表するに吝かでない。最近法題 原則として、本人の姓名の頭字と尾字 伝の邦訳等に立派な業績を挙げ、かつ 細かい点で気のついたこと。二十七 それを逆にしたものである。

が、実は正確にいうと、その中八章は 章末に主要参考文献が添えてある。 べ、読者をして飽かしめない手際は、 わが国では河口慧海、橘瑞超を含め十 流石深田さんならではと思わせる。各 本書は全篇三十八章からなっている 当然のこととしてプルジェワルス ヘディン、スタインをはじめ、 ら、これは著者の思い違いであろう。 シェン・シンの……」とあるが、前記 る。また三三八頁に「クリシュナやキ ndra Das は DCS と記録されてい GM、Hari Ram はMH、Sarat Cha-従ってAKとなり、 のようにこの二人は同一人であるか キシェン・シン(別名クリシュナ)

る。深田氏が書くべくして書き得なか て、長沢和俊氏が執筆したものであ 深田氏が遺されたメモ等をもとにし 写真版三葉を挿入したことは、本書の ラーギントワイトの油絵から複製した 文中に主要行程図や写真版を数多く入 なかったことは些か惜しまれる。見返 であるが、本書のごときものに索引が 六年春)であるが、著者亡きいま感慨 価値を高め、興味深いものにしてい れたこと、また巻頭にヘルマン・シュ あらたなものを覚える。 インの墓に詣でる著者の写真へ一九六 る。尚巻頭の一葉は、カブールのスタ しにダンヴィルの地図を入れ、かつ本 巻末に探検年表をつけたことは便利

九ポイント一段組としたのは、 されたものだが、形も大きく(合判) 前の希望だったと伝えきく。 西域探検紀行全集の別巻として刊行

る人には欠くことの出来ぬ書であり、

れだけ広汎に亘って探検家を纏めた

昭和 47年 (1972年) (No. 322) 号 (J. A. C.)

次

中央アジア探検史を読む……

雪男考……松方 マラヤ旅中詠……小林智明 石動山…………山下久男 さわがに栂海新道……小野 昨年後半の山歩き……日高信六郎… 3 ャップマン逝く………… 名誉会員章設定一私案…岩永信雄… 4 UIAAの規約······ ンズー・ラジの地図 の訂正と補遺………高橋善数… 5 日本アンデス会議……… 5 1971年のヒマラヤ 無宗楽生会 ----- 6 日本ヒマラヤ山岳協会隊……… 6 草原随想……………島田 探検と冒険………鹿野勝彦… 9 新刊図書受入報告…………… 会務報告 3 月理事評議員会………10 第3回山岳図書を語る夕べ………8

来上り、目下ルームで発売中です。頒部登山報告、第二部学術報告として出 月号を参照して下さい。 お申し込み下さい。地方送料は本誌! でに二百部きりありませんので、 お頒けしておりますが、ルームにはす 価二五〇〇円、会員には二二五〇円で エベレスト登山公式報告書は、第

山岳」覆刻版発行

たものを使用して製作します。創刊号 たいと思います。ご意見などお寄せ下 です。年内に第一年第三号まで発行 にします。頒価千八百円(送料二百円) わざ選びました。大きさも原本のまま 降は原本に似た用紙を図書委員でわざ の覆刻版はなるべく読みやすくするた 製中ですが、第二号は紙質も原本に似 引き続き、第一年第二号の覆刻版を作 売り切れました。残部はありません。 明るい紙を使いましたが、二号以 山岳」創刊号の覆刻版はたちまち

昭

和46年度会員総会

て擱筆する。

五六二ページ、定価二千円 昭和四十六年九月白水社発行、

(望月達夫)

書物は、海外にも類がない点を強調し

いませんが、ふるって御出席下さい。 行ないます。今年は特別の行事は行な 一日(土)午後三時から本会ルームで 山岳総索引」などの図書を発売しま なお会場で「エベレスト報告書」や また会費の納入も受け付けます。 和四十六年度会員総会は四月二

Mani Singh

は

エベレスト報告書発売中

雪男考

方 三 郎

なれば読まないわけにはいかない。 とは周知の通りだ。しかし「イエッテ るが、どれもこれもいかものであるこ のミイラなど、いろいろあることはあ の片鱗をつかむことはできなかった。 検隊は一冬、雪の少いエベレスト南側 で、その後音沙汰がない。NETの探 氷河のクレバスの中に消え たっきり たという後姿の「イエッティー」も、 のとき、たそがれどきに竹節さんが見 大きな足跡を思い出す。マナスル踏査 ィー」と銘を打った一冊の本があると も先きにシプトンの写した雪原の上の 一帯を歩いただけで、肝心の「雪男」 「イエッティー」のしゃれこうべや手 「イエッティー」というと、何より

いるので、中でもコーカサスなどでは ルニアまで、似たような話は存在して 央アジアを横に走って、北米カリフォ まり西はコーカサスからパミール、中 その一部に過ぎないということだ。つ て存在していて、ヒマラヤの話はごく の伝承や、事実が大変広い範囲に亘っ いうのだから話は大変具体的なのであ 人間と混血児の子孫がいたりする、と 読んでみて驚いたことは、この種類

を

亜流ではないかといった気持になる。 中に出てくる「山男」なども案外その まではいかないでも、柳田さんの話の を読んでいると、大江山の酒天童子と はヒマラヤでの呼称で、場所々々によ って呼名はそれぞれ異る。そんなこと もっとも「イエッティー」というの しかしソ連における最近の研究を軸

究はそんな雲をつかむような話ではな にして書かれたこのチェルニーネの研 い。同じ著者には前に「雪男とその仲

> らして見れば、必読の書というわけで だし、ヒマラヤ登山そのものの立場か のある人には是非一読をすすめる。た 後の材料を盛込んだものであろう。暇 れは見ていない。今度の研究は前著以 という著書があるそうだが、ぼくはそ

出てくるかも知れないと思うと楽しみ である。 が出るころには、更に具体的な事実が ことは無駄ではないし、この次の著書 続けている人がいるということを知る だが広い世の中にはこうした研究を

London nine, 1970. Neville Spearman, "The Yeti" by Odette Tcher-

ヒマラヤ旅中詠

小林 智

はやくはとのきなけり たびのめざめ カトマンズの やどのまどべに けさ たり どよめきおこる 飛行機のなか はるかなる しろきヒマラヤ みえき カトマンズ カルカッタより空路カトマンズへ

てら いふ カトマンズたてり くろきふる ひともとの きもてつくりし てらと ひは ちのみだきし わかきははかな まつりみる たびのそでひく ものご

にの バザールの なかにまぎれて とつく

ゆるかな のはにガネッシュヒマールは

ふとみ

明

むと はだしのひとの うちつづくみはろばろと シバのみてらに をろが

たふのかげに まつのかなたに まぐはひのゑの あやしきをみ やま

あをぞらに つきささるごと いただ はるかにたかき ヒマルチュリ

んから聞いた。この方は石動山、 は鹿島町文化財専門委員の広橋隆信さ

よると泰澄大師の孫弟子がこの杉をの

んだわけである。天平寺の歴史的説明

かな ポカラにて

さよふけて やまはるるかと ねざめ たる ポカラのやどに こほろぎをき

ゆき ゆふかしぐらむ ひとたばの まきをになひて かへり

けり ヤの チベットへのみち あきたけに まつのはの すがれもみゆる ヒマラ

エベレストにひは さしそめに ひるち いまま

みゆ チョーオユー

石 動 Щ

Щ

下 久

男

昭和三十年十一月、江沼地方史研究会 達はふるさとを知る一つの方法とし、 いる。その月は「石動山天平寺」を選 んでいる。実地見学にも時々出かけて たいと思っていた。その機会がやって 存分に加賀、能登、越中の山々を眺め ろと、私はきいていた。ここに登って 原状の上に立っている展望のよいとこ 前という。この山は海抜四○○mの高 を設け、毎月例会を開いて、現在に及 来た。昨秋の十月十七日であった。私 いう五六五mの山がある。頂点を大御 能登と越中との境近くに、石動山と

なしているという。開山は古縁起では 僧泰澄、養老元年(七一七)にここに 石がある。これが石動山の名の起源を 持っておられる。境内に動字石という 坊の子孫で、今に石動山に強い関心を 「方道仙優婆塞」といい、新縁起では

あまやどり せむとデゥタの たに まめひさぐこの まめもとめく ポカラのひと のきし

デゥド・コシを遡る

くれなづむ かひぞらをぬく ヒマー ルに かみさびさびと あかきひはさ

復興を図った。元禄十四年かなり復興

の頃建ったものと伝えられている。 したが、今残っている本殿と拝殿はそ いる。前田利家がら寺領五十石をうけ 火にかかり焼亡して遺跡のみが残って ていた。建武二年と天正十年の二回兵

けり かく たにをめぐれば あめつちの はじまるごとく やまにはや くもわきそめて

十月十七日。御桃園院—(明和九年)

古文書として正親町院―(天正十年

んの話はつきなかった。 月十九日)の御綸旨等がある。広橋さ

う。アテは能登では三井付近に多い ミヅ楢だという。それがアテだとい 多く、あたりも暗い程である。本殿の 中腹までは所謂石動山杉という地杉が 名を記した標柱がある。これは伝説に るのだろうか。トテン杉という珍しい いうが、この原始林の木はどれだけあ の境内には、七三二〇本の杉があると はああと声をあげてみとれた。この寺 く。ここは原始のままの林である。私 ツクバネ、木ツツジなどの樹相がつづ する。マルハアオダモ、アヅキナシ、 の大木もある。白山山麓に来た思いが が、ここのは天然のものである。ブナ いた。これはカッラ、あれはミヅキ、 の木が根を張って径にまでのびて来て る。イヌシデやイタヤカエデや椎や栃 裏側から山頂への径に出ると明るくな 私たちは石動山の山頂をめざした。 う。北陸に於ける真言宗の中心をなし 護の霊場として栄え、坊三百有余その 登り、天平勝宝八年(七五六)に一山 中、越後、佐渡の七ケ国に及んだとい 支配は若狭、越前、加賀、能登、越 平寺は永世勅願の綸旨をうけ、鬼門鎮 を総轄して、天平寺としたという。天 というが、私はこの山上に立ち越中、 そびえ、南方は白山連峯が遠く越前に く日本海に浮んでいる。上杉謙信が天 のびている。北は能登半島が臥牛の如 の意か。頂上に来た。東方は富山湾を の切株がこれだという。トテンは登天 て、低山ながら、これは見事という他 能登、加賀の三州と日本海とを大観し て、越山併せ得たり能州の景と吟じた 正五年九月十五日、七尾城を攻略し へだてて北アルプス連峯が波濤の如く ぼり、遂に天にのぼったのだ。その杉 47 2 15

さわがに栂海新道

野

縦走した記録はない。 山以北を踏破するには猛烈な薮漕ぎが 歩いた人は非常に少い。無雪季に長柵 多いが、更に北に延びている主稜線を あるので、この季に日本海まで完全に ーコースとしてその頂きを知る人こそ 北アルプスも朝日岳まではポピュラ

華群山として紹介されていますが、登腰岳(黒岩山のこと)、犬ケ岳等が蓮 破されるようになった。 雪、残雪の期間に主に学生によって踏 をしているに過ぎない。最近では積 れ、沢登りの帰路に一部稜線の薮漕ぎ 盛岡英治郎、冠松次郎氏等により歩か 山記録としては昭和の初め塚本繁松、 山嶽志(高頭式編さん)に長柵山、袴 このコースの山々の古い記録は日本

の会員ですから無雪期の山行はすべて け遂に三十㎞に及ぶアルプスの完全縦 新潟富山県境の青海町にある「さわが 海から延々とやせ尾根をけって日本海 の準平原に繁るオオシラビソの柵の樹 このコース伐開に結集した。長冊周辺 走路が完成しました。僅か十名足らず に山岳会」によって延十年の歳月をか この稜線に縦走路が誕生しました。

全くないアルプス唯一の完全縦走路で を渡ることも耕地や部落を通ることの の断崖に達するこの縦走路を「さわが に栂海新道」といいます。道中深い谷 栂海新道は飛驒山脈の末端にある古

なら二泊三日、三泊四日ならこの秘境 から照葉の池を越えると吹上げのコル め平のヒオウギアヤメの群落はこのコ 広がりオオシラビソと栂の森の断続す る。黒岩山からやせ尾根が準平原状に さわがに山、黒岩山まではやせ尾根の のコース唯一の宿である。犬ケ岳から 避難小屋で、随分と苦労して建てたこ 山荘に着く。総勢二〇名は収容できる 原生ブナ林を抜けて犬ケ岳直下の栂海 として伐開)と合流してすぐ黄蓮山の 宝倉からのバイパス道(町からの近道 はジュラ紀の古生物の化石に接し、三 南面高峰の山なみを目差す。菊石山で 北アの一角を視界に収めながら白鳥山 忠実な新道は金時坂を登り、日本海と 繁茂の中に消えてしまった。主稜線に く蘚むした道祖神を一つ残して自然の の山道)と直交しているが、今は小さ 峠は昔の北陸迂回道(主に橋立金山え 山、坂田峠えと緑なす森を進む。坂田 の山村を眺めながら二本松峠、尻高 トし、日本海を背に左右に上路、雨池 事来歴に富む親不知の断崖からスター 連らなる。白馬岳から日本海まで健脚 と合流し、朝日、雪倉、白馬の高峰え ースの圧巻でもある。長栂山の岩屑原 と埋めている。黒岩平の水芭蕉、あや る間を池塘と草原とお花畠が所せまし 連続で展望もスリルも充分満きつでき に達する。これより県境稜線となり、 に達する。ここで新道は既設の縦走路 て便利になったが、いささか味気なく

春」、学生書房「わが越後の山」に詳し コース紹介は山溪新書「山族野郎の青 を存分に楽しむことができます。 (参考、この新道の伐開記録および

> 年後半の山あるき 高信 六

郎

昨

って、しんがりをつとめる程度になり につづく去年は、山行グループに加わ 「登山不毛の二年半」(本誌三一五号)

秘境だった。今は車道が奥まで開らけ 見下ろしたころ、この溪谷はまだ真の で往復した。十五年まえ戸隠に登って 裾花川の溪谷を木曾殿アブキの洞窟ま ぶり、ところどころに残る昔の面影を 井峠にまわった。学生時代から五十年 見晴し台に登ったが、霞んで駄目、碓 しのんだ。これがこの年唯一の一人歩 長野で会合をすまして、鬼無里から 八月下旬長野行きの途中軽井沢から

のはうれしかった。 が、昔の趣きを失わないところがある 移り、湖畔にはホテルが建っている たことがある。いまは養魚所は川下に 畔の干明家経営養鱒所に泊めてもらっ から出かけ、深雪に行き暮れて、丸沼 正二年の三月友人と二人で東小川温泉 減り、群馬県側は荒れ果てている。大 沢への補給路だった湯沢峠は人通りが た。川筋のみちが開らけるまでは日光 の友だちを加え、日光沢温泉に泊まっ ル文化協会の若い会員数名にネパール のは心強かった。中旬には日本ネパー しのうちに、自然保護の決意を聞いた け。祝宴の席で大石環境庁長官と立話 みな取りやめになり、屋内の集会だ 風に襲われて、野外集会や野営、山行 て、鬼怒沼を訪ね、丸沼に出て帰っ 八月上旬雲仙での国立公園大会は台

からおくれ始め、今度も敢てシェルパ 山に出かけた。獅子口小屋の途あたり を引きうけ付き合ってくれた、エヴエ 九月は山岳会小集会に加わって川苔

れた次第になり、皆さんに大迷惑をか まにし、駅に着いたのは十時という呆 車座になり、暗中飲み喰いをほしいま たのを良いことにして、径のまん中で 先に下った会員の方々の出迎えをうけ 屋から鳩の巣に下る途中で日が暮れ、 レスト登山隊の鹿野君と二人、川苔小

となり、結局同行二人カッパを被って をふみ外したりして難行するうちに雨 が切れ、暗中を足さぐりで下った。路 に向ったところ、森中で日が暮れ電池 出来ている。山みちを選んで山県牧場 の湯から鹿の岐を遡って八方ケ原高原 り、太陽寺はすっかりさびれていた。 老壮会員と三峯神社の宿坊で歓談し、 見識に敬意を表する。下旬には梓会の せた当時の電発総裁高崎達之輔さんの 用を惜しまず、現存の湖畔まで移植さ 樹令四百年の桜の巨木二本を多大の費 ましく、御母衣ダムで水没した寺から の古い町並みが保存されているのは好 合掌造りの民屋などが移築され、高山 由白川郷のどぶろく祭を楽しみ、高山 峯の鉄鎖はコンクリートの 石段に変 初期「山岳」の写真で見覚えのある岩 妙法岳に詣で大日向太陽寺に下った。 にまわった。水没や廃屋になりかけた に出ると、立派な車道が矢板に向って 夜を明かす不首尾となった。 十一月初め塩原に行った帰りに、塩 十月中旬は名古屋からバスで白鳥経

多少とも皆さんのお役に立つ積りだっ 打ち、一人で引返えす始末になった。 に乗って出かけたとたん落ちて、腰を たが、カトマンズからナムチェ・バザ 高山、清水(信濃)小林(越後)松本 (神谷、川喜田夫妻、安彦、足立(真)、 旅行は、一行二十一名中本会々員十名 ールに向かいルクラで飛行機を下り馬 (石川)と私)という賑かな一坐だっ 十一月中旬からのネパール観山団体

れたカンナ中佐から電話がかかった。 帰途飛行機に乗り合せて山話に興じ とポカラで会い、ヒラリー卿夫妻とは 快晴の空に輝く連嶂を飽かず眺めた。 には大変お世話になった。お蔭で当国 カナダ籍院長以下の職員特に在留十年 科医、カトマンズのミッション病院の グルカのミッション病院の若い米国外 ま来合わせて最初の診察をしてくれた なったのは恐縮の至りである。たまた ベルスのセールスディレクターをして いまはカトマンズの旅行社エチ・トラ 使館付武官としていろいろ世話してく た。マナスル遠征のころ駐日インド大 来た。ヒマラヤン・ソサエティのラマ また山関係の人々と交歓することも出 ダリ公路をダウリケル峠まで出かけ、 のドクトル岩村夫妻その他のかたがた 会長以下の人々など。ロバーツ中佐 の僻地で医療に献身する人々の実態を (マウンテン・トラベル旅行社経営) 退院後はホテルで好日を亨楽し、コ

どんな山あるきが出来るか、あまり大 戦争のあおりを喰ってお流れになった が、すぐには帰れず滞留一ケ月に及ん 過ごし甚だまずい結末だったが、今は だ。帰来医者の世話になって寝正月を 人並みに歩けるようになった。今年は このあとに予定された会議は、印パ た期待は持てそうにもない。

岩手支部発足

を設け、設立の準備を進めていたが、 設立の機運が盛り上り、設立準備委員 増加し、二十名以上に達したので支部 れ、三月十一日盛岡市で発会式をあげ 議員会で正式に岩手支部設立が認可さ 昭和四十七年三月九日の本会理事、評 岩手県内に在住する本会々員は年々

十八番目の支部として発足することに

▽岩手支部役員

行、村上力、会計監事安井豊 (事務局を兼ねる) 伊藤寿、 ·支部長笠原潤次郎、 委員佐藤敏彦 小田島政

一、岩手支部事務局を岩手県に置く

条から第十三条までを準用する。 びに運営等に関する規定第三章の第八 三、以下日本山岳会定款支部設立並 二、支部年会費を一〇〇〇円とする

し、氷雪に関する研究会を開く。 山々の踏査およびその紹介。 四、焼山山系猿山にて岩場における 三、水質研究所より講師派遣を依頼 二、県内山岳地名考についての研究 一、春秋二季にわたり地元の未開の

パキスタン登山全面禁止

認めないことにした。日本からは十六ークシュ両山脈の登山隊の入国を一切禁止にし、今年はカラコルム、ヒンズ 隊が登山申請をしていた。 パキスタン領内のヒマラヤ登山を全面 パキスタンは国内の政情不安から、

、六ページより)

730)、北氷河も偵察、条件悪く放 814、17も。BC全員(819)、発 ~28)、BC (サキ谷、四○○○m、 アンジュマン峠経由、ケロン(726 停止、六四○○mでまたビバーク、 9、五六〇〇m)、C3 (810、五八 mでビバーク、813、溝井スリップ ○○m)、溝井、水上、橋谷田出発 棄、南CI (四五○○m)、C2(8 (812)、頂上(610分)、六五〇〇

訓練講習会の開催。

F. Spencer-Chapman

逝く

レデリック)の死ん フレディ(フ

パサン・ダワ・ラマと初登頂(五 ていた。チャップマンと んな年が私の頭にこびり を思い出す。どうしてこ 年という中途半端な年号 いうと私は直ぐ一九三七 ブータン・ヒマラヤのチ からないが、これは彼が ついているのかはよくわ モラリ(七三一五m) に三行ほど小さく出

ないであろうか。 出ているが、とれはそれらの走りでは ヒマラヤへという本がそれから何冊も いのは、ヘルヴェリンからヒマラヤ 月二一日)した年なのである。 へ』という本の題名である。何々から それからチャップマンで忘れられな

る。大体次のようなものであろう。 が、今行方不明になっているのもあ "ヘルヴェリンからヒマラヤへ" (一 『聖都ラッサ』(一九三八)。 彼の著書は私も幾つか持っていた

″ジャングルは中立』 (一九五三)。 "冒険に生きる"(一九五三)。 一登山家の回想(一九四五)。 略されている。尚、同じものが五 これは前二書を合本したものだが 一年に別の出版社から出ている。 『聖都ラッサ』の第一四章だけが

年では六四才で死んだことになる。つ い最近、英国山岳会の副会長を二年務 算すると一九〇七年生れであるから昨 というのが見つからないが、何かで逆 /もろに明るいアフリカ (一九五五) 彼の本では「私は○○年に生れた」 よい資料になる。

三番目に忘れられないのは私が訳し

G・Jかに間もなく出るであろうから、 いずれにせよその追悼記がA・Jか

めに出来ている言葉といっても言い過 この本を読むと冒険というのは彼のた という本の著者だということである。 てしまってある "ジャングルは中立"

> ぎではないような感じがする。 とにしよう。(I·Y) そのあとでまた、完全な紹介をするこ

○バットレス は ゴミ の 山 ○○マッキンリーのウェスト・○

ラスカのマッキンリーの西稜は最近、 とである。 物でゴミだらけになっているというこ 登山者の置いて行く空罐やその他の雑 カーターから情報兼手紙によると、ア このルートはマッキンリーをめぐる この間きたAAJの編集長H・A・

らなる清掃隊を送り込んだ。 会が音頭をとり、若い登山家の一団か の山が余りにひどいのでアメリカ山岳 か富士山ほどではないと思うが、ゴミ で登山者の大部分はここを通る。まさ ルートとしては最もポピュラーなもの 余り高いところにはなくて五三〇〇

あるから、彼を全体的に知るには BCで順を追って放送したもので これはそれまでの彼の冒険行をB

Kgに及んだという。 のは下まで運んだが、その量は二〇〇 mぐらいまでがひどく、燃やせないも

フランス、西独、アメリカ。 八人が登頂、国別は日本、スペイン、 去年は一六三人が登攀を試み、内四

如何御一考あらんことを切望するものその栄誉を賞彰されたいものであるが である。 るよう範囲を拡げらるるよう提案し、 たこれに値する物故会員にも交付さる 誉会員に交付せらるるのみならず、ま 手でないもの――を作成し、現在の名 設定せられて、新会員章 人の私案として新たに名誉会員章制を たように思考するものであって、私個 ――決して派

一九五〇年わが日本山岳会理事会に

信

入会五十年以上在籍すれば必らず得ら

しかし翻って思考するにこの栄誉は

第である。

に関する一私案 名誉会員章設定

申述べる次第である。(47・3・5記) せられたら如何かと私一個人の考えを 誉会員章に限っては物故会員迄に頒布 るべきものではないようであるが、名 これは現規定では物故会員には送ら

来ざるに栄誉あることと思っている次

誉会員たる資格ある方々が多数いられ

に入ることは許されぬようであった。 では生存者のみで物故会員にはその選 威ある制度であるのであって、現在ま で最初の規定以来現在に及んでいる権 会員制とは全く事情を異にしいるもの のがその選に当るもので、前者の永年 山岳会及び山岳界に特別の功績あるも とは全くその選を異にするものであり れるものであって、本来の名誉会員制

しかしながらこれ等の物故会員の中

に対してさしたることも致すことも出

席に列せられ名誉あることと別に、山 席上、在籍五十年に達し永年会員の末 私も一昨年十二月六日の年次晩餐会の れるようになったのは喜ばしいことで んど毎年数名の会員がその列に連ねら 貸与授けられるようになって以来、殆 籍五十年以上の正会員に永年会員章が おいて永年会員制が設立決定され、在

UIAAの

及び副会長はその任期終了後、 年任期のその職に選ばれる。会長 決議を行なった後、総会により四副会長は、実行委員会がその事前

c、会長がその職務を実施する情況 総会がその残期間の終りまでの代行する。副会長が同様の場合には が会長の任期の終りまでこれを代にないような緊急の場合は副会長

することは出来ない。 の集合体(注・加盟団体)を代表 においても総会においても、会員 会長及び副会長は、実行委員会

a、会長はUIAAの事務を処理す b、会長の責任の許に事務局は、実 の山岳連盟から選び出す。 当者は会長自らが、彼の属する国るため事務局を指定する。その担

c、実行委員会の予積見積りは、 員がこれを立てる。 長によって委任された事務局の局、実行委員会の予積見積りは、会 予算と問題を用意する。 行委員会及び総会に提出さるべき

b、事務局員は実行委員会において 会員としてそれを代行することは も、総会においても、UIAAの できない。

第一〇項

会長、副会長、実行委員会及び事 務局の委員は、総て名誉職とする

第一一項

研究委員会

集し、且、実行名を代表し、招 を総会を管理 (leiten)する。

d、これらの委員会は、委託された

b、会長並びにそ の代理者である 直

ちに再選されることはない。

d、委員会委員の経費は、その人の

所属する山岳団体によって負担さ

されることが出来る。

の会員団体の代表者としても指名 員は個人としても、またUIAA によって任命される。それらの委 c、この研究会の委員は実行委員会

関する報告を文書にして提出する 規約に従い、その活動及び成果に 会に、その要求により、特にその 委員会となる。それらは実行委員 仕事に応じて、諮問あるいは活動

第一二項 四 会

れる。

a、UIAAの最高機関は総会であ b、総会は少なくとも二年に一度開 催される。その運営は各国会員協

c、総会への招集状は、開催日の少 なければならない。 なくとも二カ月前に会員に送られ 会の一つに交互に委託される。

a、総会は会長、副会長及び実行委 員会の非常任会員を選ぶ。

e、総会はこれらの報告の裁可を決 b、総会は、会長、財務及び各委員 会の報告を受け入れる。

d、総会は前の一二月三一日に任期 の解責について決定する。 を終った会長及び実行委員会委員

動を決定する。 IAAに関係する問題の総ての活 e、総会は最後の権能において、U

4)

a、実行委員会は、特定の問題及び

それに属する課題を実施するため

の研究委員会を設置することがで

称によったが、シャハン・ドック(六二 人たち、特にガゼン・ゴルの住人の呼

三一m)を Brep をの村人らは Shah-

と呼んでいるように、

多少の違

たので除き、

新らしい図の総ては現地

った山の名称は、私達が勝手に名づけ

私達(海老原道夫と高橋善数)が登

いはあるかも知れないし、私達登山者

ヒンズー ラジの地図の訂正と補遺



高橋善数

ルウェル・ゾム、ガゼンの村では、 ○三一m)などは、Parwer村ではパ *山』二七三号参照)のShayaz(六

m)と呼ばれ、黒々とした二〇〇〇m った山でした。「山岳」の図のⅠ峰(六 Ⅱ峰、Ⅲ峰と夫々巨大なギャップを持 当? のツイ峰は、ツイ峠南の岩峰(六 ムI、IIと Sandeh Zom です。 しては別の機会に譲ります。 した。このヤルフーン流域の山名に関 Unaucho Zom と夫々異なっていま 五八m)、主峰からツイ峠へ向って、 さて図上の大きな間違いはツイ・ゾ 五八mは Buratuyosu (六一九一

が撮ったもので、仲間は高山病でフラ らツイ、ゾムを望む。は真中にブラツ 筈です。 フラしていて写真どころではなかった です。余計なことですがこの写真は私 たいコルがツイ・アン(四四九九m) 右がブラツョスで、ツイ・ゾム下の平 ヨス・ゴルを挟んで左側がツイ・ゾム、 「山岳」の写真パプチ・ゾム頂上か

にも余る岩峰です。

呼称ではないかと考えております。 ツイ峠を越えて交流しているので同じ か知りません。でも村人達はお互いに ら側の人達はどのように呼んでいるの 村までは行きませんでしたので、そち でしょう。 いました。 りまでを Tuiyo-Ano-Zom と呼んで イ・ゾムあたりからブラッヨスのあた しかし私達はカシミール側のツイの また、現地ではツイ峠周辺のイ・カ /ツイ峠の山』という意味

りましたが未知の谷に入った者とし り残した高山が多くあり、残念ではあ

正しく報告しておくのが義務であ

ると思います。

しておきたいと思います。仲間の不運 誤まりがあるので後々のためにも訂正 Hindu Raj"に、山名に関して大きな tch Map of Gazen Gol Region, 第六三年所載「ヒンズー・ラジ、一九六

七年」(海老原道夫)中、一六四頁"Ske-

たに大変申訳ありませんが、『山岳』

『山岳』編集委員及び会員諸先輩が

と病気で思うような登山も出来ず、登

無名峰です。 は私達の思い違いで、この峰はガゼン ゴルに関しては見ることが出来ず 次のサンデー・ゾム(六五二三m)

パルウェル村からガゼン・ゴルを見

異なるものも少なくありません。 るにも拘わらず、村々によって呼称が Yarkhun Mountains

五二m)の西にあった峰であることを 再び見返した時、カマロ・ゾム(六二 ンデー・ゾムに転戦すべく探したが、 確認しました。 不思議な気持ちでした。帰路馬上から 三mのピークは三角錐の鋭峰であり、 私達がサンデー・ゾムと思った六五日 ゾムが二人では登れそうもないのでサ それからガゼン・ゴルに入りツイ

ります。ショストやラ 照)、これをツイ・ゾ 写真をとって、ツイ・ 在は一応ツイ・Ⅱとな のでしょうか。へ注・現 どのように呼んでいる シュトなどの村々では ムと呼ぶには疑問があ が ("山" 二七五号参 ピークーとしています 士はヤルフーン河から っている) この六五二三mの峰をグルーバー博

ムと呼んでいます。 現地ではサンデホ・ゾ 変更して下さい。 見つけたく、多くの日 ためにも正しい山名を も知れません。あとの は山名も変っているか bargar の村によって ー・ゾムにしてもDo-ー・ラジ」の本文中の ことを痛感しました。 本隊の調査を統合する "六五三七mの峰"と "サンデー・ゾム"を 前述の正しいサンデ 前記により「ヒンズ

なだらかな白い雪を被った山が望ま れ、聞いたところサンデー・ゾムとの ぞかせた岩峰がツイ・ゾムで、左手に 谷間の底からチョコッと頭をの

がないでもないが一応原文のままにし ところもある。 よって不明なものが可なり瞭きりした 大部補足したが、両者を合せることに ておいた。 地図は宮森君の地図(HK三版)で

ばますます立派な地図が出来上ること のものと思う。善数君自身ここへの再 遊を期しているので、それが実現すれ 地名、山名の綴りは耳に入ったまま より保留してあったもので不明確な点 編者に届けられていたものだが都合に

(注)高橋君のこの記事は可なり前に

◇日本アンデス会議開催◇ 長野県諏訪市片倉館

日時 参加者 アンデス経験者、遠行予定 約一三〇名 会費 三九〇〇円 気候等 パネル討議(輸送、 過去の登山隊発表、七二年隊発表、 者及びこれに深い関心をもつ人、 昭和47年3月19、 講演(田中薫氏他)、懇親会 通関、担夫、 20

申込所 事務局 長野市石渡町一四〇一七 長野県諏訪市元町14-2 横地康生方

Sketch map of Gazen Gol Region, Hindu Shotor Gol 73° 6523 (6537) Raj Madit 901 Gum Gol Kamaro Zom Dobargar 1-Kai Zom (5737) Ferianjo Zor (5580) à 4 John P Sunupu Gazen Tui Zom
6[58

Buratuyosu
6[9] (6180)
5700)
Ghalsa Bar Jimayano Gol Jan Te ichiko Gol (5864 Zupu Zom 928)Gol Adoraho Gol Mirzhurian Gol c.5900) imayano Zom Ochiri Gol Mushk Bar Gol 8 (5916) latukash Zom 5995 chiri Zom 691) (by Y. Takahashi)
Parenthesized heights are the figures
from the map of Mr. T. Miyamori (I.Y.) 4 5 km 3

- 935



弋 東京農業大学隊

シックル・ムーン(六五七

登山活動、頂上手前にある岩峰が突破 出来ず、五五〇〇mのプラトーから 隊員、山本浩(隊長、25)他四名。 四m)試登(ヒマチャール ・プラデッシュ)

慶応大学登山隊

引返したという。詳報未入手。

登、(チャンバ・ヒマール) メントサ(六四四三m) 試

隊員、竹村真(隊長、26)、井久保康 平、(22)、吉川正幸、(22)、内田健

登山活動、現地は六一七月。記録未入 年の秋(一〇月)にこの山が英国の 却したらしい。なお同隊は一九七〇 手で詳細は不明だが頂上近くから退 は、現在の情勢から言えば面白いと しても日本隊がここまで入れたこと いることを知らずに行った。それに ・ベンローズ大尉の隊に初登されて

ラムク(五一三〇m)試登?

カシミール

コラホイ(五四四〇m)、ハ

九 無宗楽生会

ラデッシュ。 二八m)、ヒマチャール・プ ハヌーマン・ティバ(五九

登山活動、外国人の入山規制で大部予 海老原政夫(23)、杉浦清(23)、半 ター二名が登頂した。 定が狂ったが、結局、915、村野、 谷貞夫(23)、須藤誠(23)、相沢篤 ティバの北稜第二登を果し、913、 高山、海老原の三名がハヌーマン・ (22)、松葉豊 (画家) 同行。 (29)、持田明彦(27)、高山要(26)、 ノーマル・ルートで他の三名とポ

日本ヒマラヤ 山岳協会隊

34)、玉井道隆(56)、田中重義(25)、 字井邦夫(20)。 空昌昭(そらよしあき、隊長)

登山活動、時期も行動も大体次の名城

隊員、塩原輝昭(隊長、30)、村野詔三

隊員、小谷隆一(隊長、47)、小山貢 二名死亡、その中のヒダヤットシャ で)。従来のチョゴルンマ氷河が不許 広瀬喜己夫(26)、森岡秀雄(30)、 原田達也(36)、尾上政弘、(28)、 (登攀隊長、40)、城戸久隆(35、医)、 あった。補償金その他の問題で大部 ーは過去回、登山隊参加の経験者で イ・ポーター達四名がこれに遭遇し、 日C2(五〇〇〇m)を出発したい に入る。524、早朝氷塊崩壊、その 可で、マンチェスター隊と同じ西側 臼杵文男(27)、山本夏雄(BCま 淹野真二郎(26)、奥山啓一(25)、

隊と同じらしい。登山活動の詳報未入

海外交流会

隊員、沖允人(まさと、隊長、36)、 日那明(20)、山田豊和(19)、督永 木津正俊(21)、高浜康博(21)、登 ワットのマンキヤール

登山活動、84、督永、木津、コラホ 87、スリナガール、811、沖、高 ジャバ・マンキアル (四三五〇m) 部スワットに移り、821、沖、高浜 登預(ハラムクは登らず)。次に一 浜、ハラムクの無名峰(四三五〇m) 高浜、無名峰(四八五〇m)登頂。 イ (五四四○m)登頂。85、

学術調査活動、教育、農林業、商業、 環境工学、高山昆虫学、文化人類学 と大部広範囲である。

C、カラコルム 京都カラコルム会

マルビティン(七四五三m)

名城大学山

カシミールのコラホイとス

三、市川山岳会

隊員、有岡達郎(隊長、35)、山本良彦 藤勝義、(26)、川名茂(25)、長坂 (副隊長、27)、影山芳親(27)、伊 K12 (七四二八m)、試登

登山活動、スカルド発(719)、カパ ルの下)、山本、川名、C5 (812 C5 (811、六二〇〇m、岩稜のコ ている、C4 (89、五九〇〇m)、 (729、四九〇〇m)、H·P一人急 端)、C (727、四四〇〇m)、C 2 ルで渡河(721)、これは上のスム 良夫(20)。 ここからは広大な雪原が山頂へ続い 九〇〇m、ビラフォンド氷河の末 ルーの方がよい)、BC (725、三 性肺炎、C3 (85、五七五〇m)、 (13)、登山中止と決定、BC

梶

正彦 (24)

上智大学個人 クシュ

置(コーナー・キャンプ、四四一五 頂(711、五一二〇m)、ABC設 九○○m、77)、ハイキング峰登 アスコーレ (817)。 (五〇七一m、81)、ウズンブラッ スノー湖C (四七七一m、728)、 m、719)、ヒスパー峠往復(726)、 オーガー南面偵察)、BC発(816)、 オーガー峰(七二八五m)北面偵察 ク氷河中央地点(四七七一m、812、

可能性あるも、いずれの面にも四〇 ンダス河)が出来ている。 い。スカルドから16㎞上流に橋(イ ○─五○○mの岩の垂壁があるらし オーガーは北面よりも南面にやや

登山活動、フラディ村にBC(78)、 隊員、北川哲夫(隊長、23)、 ○mまで登る。 入り、815、五〇〇〇m級を四八〇 スワットのカラムからハラハリ谷へ 永野、笹山、登頂(730)、 (21)、笹山好次(21)。 その後、 永野均

E、中部ヒンズー・クシュ 福島県山岳連盟隊

コー・イ・バンダコー 登頂(六八四三m)

登山活動、ウドレン・ゾムが不許可に (三ページへ続く) なったので急ぎバンダコーに転向。 田明(23)、芳賀甚一(医師、66)。 成田安弘(28)、水上雅(27)、橋谷 溝井力男 (35)、佐藤善紘、(29)、 洋一(副隊長、42)、仲西昌寛(37)、 佐々木健臣(隊長、37)、山倉 苦労した。

一、立教大学理岳会隊 ビアフォ氷河の中上流を探

する必要があるとのこと。 く、条件も悪かった、一カ月は早く 18 (20)、スカルド (826) 事故多

D、西部ヒンズー

隊員、高橋正治(隊長、33)、上間英

踏査活動、アスコーレ、(72)、BC (ビアフォ氷河、ホーブロック、三

探検)。8号参照のこと。

く評価してよい冒険旅行(『現代の 歩で横断、五五〇㎞、これは相当高 西部をカーブルからヘラートまで徒

て紹介しよう。 査して戻る。その写真は次号におい 奥に入り、つぶさに四辺の山谷を踏その後、ヒマラヤのランタン谷の

二、京都城南高校OB

シャー・フラディ 五一四三m

深田久弥著作展

本文二九二頁

出品目録および解題③

瀟洒なる自然 ―わが山旅の記― 表題作のほか「山頂」「春雨の山」 四六判 本文二二〇頁 写真別丁五 昭和四十二年十一月 新潮社 葉 四五〇円

心の底まで吸いこんで」いる、味わい ったといえる。「静かな美しい自然を 田さんの自然にたいする美的把握であ ずその順にしたがっている。これは深 んだところだが、本書もその例にもれ 容を四季の順に配列するのは著者の好 収める。「山岳紀行」以来、一冊の内 「越前の山」など四十四篇の紀行随想を Щ 出た。第三章に「ノアの方舟」のアラ

シルクロード ―過去と現在―

歴史と文化」を併録。 っている。長沢氏の「シルクロードの ードの印象」と題してその紀行文を綴 を得た。深田さんは本書に「シルクロ かけてシルクロードの実地見聞の機会 なかにあって四十一年一月から五月に の監修者となってあらわれるが、その ア探検紀行全集」「西域探検紀行全集」 央アジア研究は、「ヘディン 中央アジ (ともに全巻にわたって解説を執筆) 写真別丁四十頁 付図二 一二〇〇円 昭和四十三年十月 長沢和俊と共著 深田さんのヒマラヤ研究につづく中 A 5 判変型 本文二七七頁

白き

判本文三〇四頁 装幀·栃折久美子 昭和四十四年九月 二見書房 四六

八篇を再録して一巻にまとめたもの。 随想・ヒマラヤに関するエッセイ三十 小規模ながら選集というべきもの。 わが山山」以来の旧著から紀行・

シルクロードの旅

昭和四十六年六月 朝日新聞社 几

> らベイルートに入り、トルキスタン、 あった。白水社では不充分であったも イラン、アフガニスタンからデリーに 行された。はじめの旅はモスクワ、ハ の印象もくわえ書き下しとして没後刊 のをのちの旅行(四十四、四十五年) 横浜を出港して五ヵ月間を要して中央 ノーバーを経由してイスタンプールか アジアの広大な地域を探索したもので 記録である。この旅は一月二十三日に 昭和四十一年のシルクロードの旅の 写真別丁八頁 とによって刊行された。 枚は長沢和俊氏の熱心な協力を得るこ 逝によって中断されたが、遺稿七○○ 述にかける深田さんの意気ごみはさか 未開拓の領域であり、その点、この著 界史における中央アジアという課題は おいて近代の群像が描かれている。世 がとりあげられ、第二部ではセミョー いたるまでの探検および探検家の事象 んなものがあった。惜しくも著者の急 瑞、橘瑞超、ラティモアらの十四項に スタイン、河口慧海、ペリオ、大谷光 ノフ、ヤングハズバンド、ヘデイン、

(講座・編著・解説)

ラット山登山記がある。

頂の憩い

真別丁三葉 装幀・串田孫一 五〇 本文一五六頁 著者 写真一葉 写 昭和四十六年七月 新潮社 四六判

と最後にのぼった山は武生の日野山で みとることができる。 あった。八百メートルにみたない山だ 見をし、山のような文章を書こうとし その後」「京丸山」「黒姫山」など二十 田さんの、文人登山家としての姿をよ 尽きない」と記している。志げ子夫人 さな山に目をくばり、登りつづけた深 る。「日本百名山」完成後も未知の小 てこられた深田さんの息づかいがあ が、自然のなかにつねにあたらしい発 後に書かれた短い文章の集約である が、そこに万葉の歌のあとをさぐる深 田さんは、なおも「私の登りたい山は 一篇を収める。「瀟洒なる自然」刊行 最後の自選紀行文集。「『日本百名山』

中央アジア探検史

写真別丁四頁 二〇〇〇円 変型 本文五六二頁 著者写真一葉 昭和四十六年九月 白水社 A5判 序説「中央アジアとは」につづいて

> 「山の文学」を執筆。この講座には 幀·足立源一郎 二円 本文四一二頁 写真別丁十六頁 装 昭和十年十一月 共立社 A5判

第五巻に「白山」を、第六巻に「八ケ

岳・霧ケ峯・美ケ原」を執筆した。

雪庇 —随想集— 出版部 B6判 本文二八四頁 写 昭和十二年十一月 帝国大学新聞社 紀行文「スキーの清水峠」を収める。 真別丁十葉 挿画別丁五葉 二円

円二十銭 写真別丁十頁 装幀・谷口喜作 一 書店 A5判変型 本文四七一頁 昭和十三年七月 深田久弥編 青木 「八甲田高原」を執筆。

真別丁十三葉 書店 A判変型 昭和十四年八月 装幀·谷口喜作 奏幀・谷口喜作 二本文五一七頁 写 深田久弥編 青木

「清水峠」を執筆。

書店A5 判変型 本文五〇三頁 写 昭和十五年十月 図版別丁十頁 深田久弥編 青木

ラギントワイトまで、古代から近世に

第一部はアレキサンダー大王からシュ

「お鉢廻り」を執筆。 丁二葉 装幀·谷口喜作

高山深谷 第十輯

「山上の池沼」(鎌池・赤沼)を執筆 アルス B5判 七円五十銭

現代紀行文学全集山岳篇 (上)

本文四三六頁 写真別丁三十二頁 昭和三十三年七月 修道社 四六判 四八〇円

の池沼」を収録。 知」を、北日本篇(33・7)に「山上 書下巻(33・8)には「立山」を、中 部日本篇(33・6)に「親不知、子不 「鳥海山の春」「男体山」を収録。同

山のABC 三巻

らと共同執筆。 昭和三十四年十二月~四十四年十二

日本山岳風土記

巻に「巻機山」を、第八巻に「屋久島」 越路」を、第四巻に「清水峠を、第五 幻影」を収録。同書第三巻に「冬の犬

山岳事典(登山講座別巻)

「ヒマラヤ登山年表」を執筆。 六二〇円

忘れえぬ山

昭和三十五年七月 串田孫一編 A5 判変型 写真別丁二〇 年田孫一編 筑

三円二十銭

昭和十六年十二月 日本山岳会編

版別丁一葉 写真別丁八頁 四八〇円 昭和三十三年六月 長尾宏也と共編 修道社 A5判 本文二五八頁 図

「秋の上高地」を収録。

「ニセコアンヌプリ」「八甲田高原」

月 創文社 A4判変型 画文集 畦地梅太郎・尾崎喜八・串田孫一氏 11100円 1五00円 11000円

昭和三十五年三月 宝文館 「加賀の白山」「雪山における幻覚と 本文三六〇頁 四三〇円 B 6 判

5判 本文四四○頁 写真別丁八頁昭和三十五年四月 山と溪谷社 A 昭和三十五年四月 山と溪谷社

ことしの現地支部長会議

ます。詳細は本誌三二一号を参照。 行ないます。多数会員の参加を希望し 会は六月十六(金)十七(土)十八日 (日) 鳥海山を中心に秋田支部担当で 本年度の現地支部長会議兼現地小集

頁 四〇〇円

世界山岳全集 第十三巻 「屋久島」を収録。

昭和三十五年七月 朋文堂 装幀・田中博/町田明夫 「氷河への旅」を収録。 本文四〇一頁 写真別丁八頁 四五〇円

現代登山全集 6

「大河原峠」を収録。同書第三巻に「立 東京創元社 A5判 本文二九七頁 昭和三十六年二月 山崎安治他編

山」を、第八巻に「お鉢廻り」を収録。 世界紀行文学全集 第二十一巻 (山岳編Ⅱ)

世界教養全集 22 昭和三十六年六月 修道社 「氷河への旅」を収録。 本文三七三頁 写真別丁十六頁五五 A 5 判

「解説」を執筆。

二九〇円 判 本文四八九頁 昭和三十六年八月 写真別丁四頁 平凡社

世界の旅 9 南極とヒマラヤ

B6判 本文四三一頁 写真别丁四 昭和三十七年八月 中央公論社 小 解説「登山と探検の精神」を執筆。 葉 三六〇円 昭和三十七年八月 中央公論社

登攀者 —積雪期登攀記録集—

「ヒマラヤ鉄の時代」を執筆。 5 判本文三四八頁 写真別丁八頁 昭和三十八年七月 装幀·岡部一彦 九五〇円 山と溪谷社 A

(近藤信行)

第三回 書を語る夕べ |山岳図

藤島敏男氏を囲んで

その第三回目が二月二十四日午後六時 めて行なわれました。 三十分から、ルーム一杯の参会者を集 を重ねるにつれて盛会になりますが、 て、伊倉剛三さんの司会により山岳図 今回は藤島敏男名誉会員をお招きし 恒例の「山岳図書を語る夕べ」は回

いったところから始められ、ヨーロッ でお話は進められました。 ロニーも混えられて楽しい雰囲気の中 まず山の本の歴史とか昔の思い出と

を伺いました。藤島さん独特のユーモ 書や造本についての大変興味深いお話

アのある話術で時には鋭い批判やアイ

大正末期から昭和の中頃にかけてであ 本も少なかった。今いわゆる古典とい 山の本を書く人は少なく、従って山の のであろう。明治から大正にかけては 日本の風景を論じ時に登山に及んだも る。日本風景論は烏水も影響を受けて 島烏水が近代の山の本の草分けであ 主とした山登りを楽しみとした本が出 パでは古く一七〇〇年代にド・ソシュ たのは昭和五年であるが、非常に珍し ト登山記」が田辺さんによって訳され た。ヤング・ハズバンドの「エベレス いるが、登山を扱った本というよりも たのは明治中期以降である。そして小 旅行記」といった立派な山の本が出て った。山の本の翻訳も非常に少なかっ われる山の本が出されたのはいずれも いるが、日本ではこのような山登りを ールの「モンブラン」とか「アルプス

さなかったかというと、そういうこと は決してなく例えば「山岳」第二年第 号にはコンウェイの The Alps や、 しかし山岳会が海外の本に関心を示

> るものであり、また読むのが楽しみで にとっては海外の本は非常に関心のあ 者がいるが、そういう機会の無い人達 太郎、辻村伊助、槇、松方さんら先駆 ラヤ及びその他の登山」などの新刊書 第二号にはノーマン・コリーの「ヒマ 外国の山へ行くのは容易でなく、また 評を烏水が始めていた。現在のように 行く人もまれであった当時は、加賀正

良き時代のお話も披露されました。 で大島氏も軍服姿でこれらの雑誌を勢 ダ、スコットランドなどの雑誌を座敷 が「アルパイン・ジャーナル」やカナ かった頃、皆香園の小集会で木暮さん 表しそれらが登山者に与えた影響は少 慶応の部報や「山とスキー」などに発 彼がいろいろの文献を見つけ出しては 心に見ていたことなど、懐かしき古き に広げては紹介して呉れたが、その席 なくない。また昔山岳会のルームの無 話は大島亮吉氏の思い出にも及び、

なったことがある。 品によってヒマラヤ文献の展覧会を行 も丸善で行なったことがある。また深 興味深かった。同様の展覧会を戦後に 記念して内外山岳図書の展覧会を行な 山岳会にあったからである。このよう したり自慢し合ったものであった。山 ら取り寄せたり熱心に集め仲間に紹介 の本を揃えたが、個人でもイギリスか 田、小林、望月氏のコレクションの出 ているが非常に珍しいものが出品され ったが大変好評で、その目録も残され なことから昭和十年に創立三十周年を のもこのように本を好み愛する気風が 岳会が多くの本を集めることが出来た 虎ノ門時代には山岳会としても多く

思う本以外は集めないし、古書展など 災で焼いてしまった。最近はこれぞと にも行かない。何故ならかつて集めた 本が最近では途方もない高値になって 自分も大分本を集めたがほとんど戦

なった。特に最近の山の本の出版はお と厳しい批判をされました。 る意味では読み捨ての週刊誌並である 海外遠征記録のようなものが多く出て の本を編集し直したり、何々全集とい で残るものはどの位あるだろうか。昔 びただしいが、これが本当に後世にま 本技術の向上によって多く出るように が刺激になりまた購買力や紙の質、製 ったが、一九五〇年代のマナスル登頂 書としては残らないのではないか。あ てあるいは資料としては残っても山岳 いるが、どれも皆千篇一律で記録とし ったものは後世に残るだろうか。殊に 近年の山の本は戦後しばらく出なか

り売れていないようだ。例外もあるが 生のような若輩には一寸耳の痛いお話 るがあまり本は読まないようだ、と小 とか山へ行くことには夢中になってい が、雑誌を読んで何とか峰とか何の壁 ないようだ。これはおかしな現象だ ういう読者は山の単行本はあまり買わ れているように聞いている。しかしこ るかというと、登山入口の割にはあま も出されました。 る。これに対して山の雑誌は非常に売 たように種類は多いがそれが売れてい 万部以上も出ているのはまれであ 山の本は紀行文あり随筆ありといっ

多い。例えば箱やジャケットばかり立 はなおざりになっている。これは時 派にしたり妙にケバケバしく製本の方 のが作られるようになったが間違いも 山」特製本を持参されて示されなが 手になる小島鳥水の「氷河と万年雪の ら、最近は山の本もいろいろ凝ったも てもうんちくを傾けられ、藤島さんの 藤島さんの御造詣の深い造本につい 国柄もあることだろうが、本来箱

を飛ばされ参会者一同苦笑させられた おり、焼いてしまったのが口惜しく、 「今持っていれば左団扇だね」と冗談

のためにその本にサインまでしてある 仲々に凝った立派な製本であった。こ 入れてある。これはカンボジアが皆僧 リが多いからである。表紙には坊主を 中にはコウモリのシオリが入ってい という。 わかる。製本した人はその責任と名誉 いうことを大事にするかこのことでも の本代が四十八ピアストルで製本代が の国で坊主が多いからといった具合で る。これはアンコールワットはコウモ カンボジアの婦人がまとう布を使い、 ム・ルヌの製本であるが、見返しには 三十五ピアストルであり如何に製本と

社の斎藤昌三氏が鳥水の本を出したの というだけで本として本当に出来が良 くなった。しかし名だけ限定版や豪華 ようになり、またそれを求める人も多 が最初であるが最近は多く出版される 天金は埃を防ぐためのものであるが、 いかどうか疑問のものが多い。例えば わが国の山の本の限定版は書物展望 ものではないと強調された。 やジャケットなどはあまり手をかける

念入りに作ってある。天金は卵の白味 である。パリなどにはその製本屋が沢 で製本するのが本物であるということ 版を見せていただいた。この本はマダ 巡礼記」という一九三〇年発行の限定 内工業的なやり方である。その見本と を溶かし金箔を付けるというような家 を大切にする。造本は値段も高いが接 な製本をした本が多く、また非常に本 山あり、これらの書斎や書庫には立派 のことをフランス綴というがそれは間 というピエール・ロチの「アンコール して、藤島さんが昭和十五年ベトナム 着剤など使わず全部糸でかがってあり くイタリアその他にもあり要するに後 違いである。仮綴はフランスだけでな て、フランスの本は仮綴が多い。仮綴 へ行かれた際、サイゴンで求められた フランスの造本についても触れられ

天金を付けておきながら帙に入れたり するのは間違いである。 また帙に入れるのは和本ならばあり

本も多いようである。物は需要者の評 というように意味のない面白味のない 上が藤島さんのお話の概要でした。 目が高くなれば自と本も良くなる。 本も同じことで読者が多くなり読者の 価眼によって良くも悪くもなる。山の 山へ行って紀行文を書けば本を出せる にはない。しかしながら反面、誰でも についても指摘された。 登山ほど本の出ているスポーツは他

を持参され説明していただきました。 ますが、今回は蒙古や中国の古い写経 会員の皆様の御協力をお願いする次第 後も楽しい会として発展させたいので を喜んでおられることと思います。今 たり致しました。深田さんもこの盛会 に面白いものだと大いに喜んだり驚い 冊を見せていただき、参会者一同非常 物しかないという非常に珍しい写経数 書きしたお経など、日本には、この現 か、ビルマなどの南方の木の皮に彫り 西遊記の西蔵法師が持ち帰ったものと 古文書や資料を見せていただいており なお吉田久兵衛会員には毎回珍しい

与一、野口末延、黒田正雄、武田満 井雄二、神原忠夫、蟻川矩正、中河 野上成勇、近藤信行、田辺主計、今 徳、斎藤健治、大橋晋、横山厚夫、 短祥、岩永信雄、諸岡一次、三枝明 村正二、山崎安治、小林義正、坂本 交野武一、伊藤博夫 野勇逸、吉田久兵衛、 子、望月達夫、村尾金二、河村栄 二、松下肇、出口当、 藤島敏男、伊倉剛三、今 松本由伎子、 堀口章雄、浦

かしいではないかと最近の造本の誤り 得るが、洋風の本を帙に入れるのはお 二〇二ページ、定価一、二〇〇円。

和四十六年九月、新樹社発行、

0

両日恒例により上高地で行なわれま

(8低い山を歩く会『低山』No. 80(47

116 47-1)

短い中に立派な文明論が展開されてい の及ばなかったものもあるが、他面、 自然の保護を強く訴えたものなどに 自然を扱ったものとか、公害を論じ、 いるのを見出すのは楽しい。北海道の て馴染み深い著者の横顔が、のぞいて

短文なので、結論的なものまで筆

八年間にわたる著者の観照と思索の

なかなか興味ある

るものも見出される。 たる諸題の合間に、わたしたちにとっ 思うことが少なくないが、多方面にわ 会員諸子の共感を呼ぶものが多

マが面白いとき、も少し聞きたいなと

ストン祭は六月三日(土)四日(日) 均四五○頁、一月二十日より毎月一 ことしのウエストン祭 十日に一冊ずつ刊行、朝日新聞社発 本年度ウェ

义 原 書 随 紹 想 介

草

伊藤秀五郎

しく語ってくれた本として、古い会員 年刊)は、北海道の自然と山登りを美

この著者の旧著「北の山」(昭和十

多角的に検討される。 その周辺、海と空、に区分され、各々 の対象が自然、文化の様々の側面から アメリカ、ヨーロッパ、極地、日本と ジアI(湿潤アジア、含オセアニア)、 巻が各々"地域』、"技術』"理論" アジアⅡ(乾燥アジア、 の三本の柱によって構成されている。 として企画された。構成としては全8 在でもある加納一郎氏の古稀記念事業 "技術" においては、探検的行動に "地域"に、全世界がアフリカ、ア 探検ジャーナリスト」の草分け的存 本会の永年会員であり シベリア)、

筑摩書房寄贈

問題が討論される。 集委員5人に1人のゲストを迎え、シ に解説される。 ポジウム形式で、「探検」の基礎的 "理論"では、全8巻を通して、 編 伊藤敬氏寄贈

定期刊行物受入報告

「部報・会報類」

ている。発表の場所が北海道の新聞の この随想のテーマも実に多岐にわたっ

超えている。

そういう短いエッセイなので、テー

八百字程度に限られ、その数は百篇を コラムなので、一つの文章が大体七、 戦後は新聞の論説を書いたり、才能教

著者は篤学の生物学者である上に、

だが、とんどは山の話が主ではない。 だろう。その伊藤氏の久しぶりの新著 たちには、なつかしく記憶されている

育界で多くの要職に就いてきたので、 育に打ち込んだり、さらに北海道の教

で、各分野の専門家によって、具体的 階から、最終的な 情報整理の段階ま 必要とされる知識や技術を、準備の段

小方全弘氏寄贈

勝良君追悼録一』昭和47

検的活動を、このあたりでひとまず整 日本人による、特に戦後の活発な探 本多勝一の五名である。 ①長崎山岳『あしあと』第14号―創立

定価各巻九八○円、四六判、各巻平

は加納一郎、(故)泉靖一、梅棹忠夫、 うのが編集者の願いである。編集委員 者・冒険者」たちに提示したい、とい 理し、まとまりのある形にするととも に、あたらしい時代の行動的な「探検

(鹿野勝彦)

③兵庫県山岳連盟『兵庫山岳』No. 57 (4)京都山岳会『京都山岳』No. 562(47 ②山村民俗の会『あしなか』 No. 131 30周年記念特集—(46—12),(47—2) (47-1)

(7)日本自然保護協会『自然保護』 (6)東京野歩路会『山嶺』No. 502 (5)奥多摩山岳会『O·M·Cレポート』 No. $258 \sim 267(46 - 5 \sim 47 - 2)$ (47

図書 新刊図書受入報告 室便:

ij

朝日講座「探検と冒

(昭和47・2)

朝日新聞社寄贈

(2) 『朝日講座探検と冒険8―海と空』 ①朝日新聞社編『朝日講座探検と冒険 1ーアフリカー』昭和47

(1)山里寿男著『画文集ヒマラヤ』 (1)日本林業技術協会編『私たちの森林』 (1)小方全弘著『ブータン感傷旅行。 (1)野村晃編『毛勝ひとりぼっち―故江 関西学院大学体育会山岳部寄贈 (1)ロベール著・桑原武夫・高田方一訳 『われらのものならぬ世界』昭和47 昭和 1 ガ ユングフラウ

山里寿男氏寄贈

ンブラン 7 マルモラーダ マッターホルン アルプスの美しい自然を心ゆくまで満喫する • パック特別コース

8 アル

- 費 用 ¥488,000 (ローン可) ◆期間 7月22日~8月8日 日 程
 - ●近代登山の発祥地シヤモニー ······3 泊
 - マッターホルンの イタ リア 側の麓チエルビニア……1泊
 - **〕**テオドール・パスのイタリヤ 山岳会山小屋………1泊
 - ●そして徒歩でスイス側の山麓 の町ツェルマット……2泊

- アイガー北壁直下のアルピグ イン………3泊
- チロルの中心インスブルック ………1泊
- ドロミテのふところアルゲー 2泊
- (その他の宿泊は機内 2 泊, ジュネーブ、ミラノ各泊)

〇申し込み問い合せ先

井 航 サ ービ ス

東京都港区新橋 1 丁目 18 番 1 号 TEL 03-504-0271 団体課·須山

田日本登山協会『山と雪』No. 166(47 侧横浜山岳会『山』No. 475, 476 (9)日本山岳協会 『登山月報』 -1,2)No.

(1)『アルプ』 No. 168 (47—2) (2)『岳人』No. 297 (47—3) (3)『山と溪谷』No. 47—2) (4)『創文』No. 105 (47—2) 「その他」 『アルプ』 No. 168 (47-2)

(1)長野県山岳遭難防止対策協会『冬山 Journals Arrived in February 情報—昭和46年度—」

"Die Alpen" Jah. 47 Quartal "Die Alpen" Nummer 12

"Appalachia bulletin" Vol.37, No. Dezember 1971.

ω. 2.

"Der Bergsteiger" Jah. 39,

4.

"Mountain" No. 18, Nov. 1971.

6. 5

- "Osterreichischer Alpenverein" Jah. 26, Heft 9/10, Sept, Okt 1971.
- 7. "Österreichische tung" Jah. 89, Folge 380 Nov/ Dez 1971. Alpenzei-
- 8 "Panorama of Slovakia" 1971
- 9. "Rivista mensile" Anno 92, N. 11 Nov. 1971.
- 10. 洋書受入報告 "U.I.A.A." No. 47, Dec. 1971.

H.C. Sarin 氏寄贈

Kohli, M.S. Everest" Orient Longmans. "Nine Atop

The American Alpine Club 寄贈 William Lowell Putnam

> bia" The American Alpine Climber's guide to the Inter-Club 1971. ior Ranges of British Colum-

35

図書委員会報告

上、蒲野、武田、横山 2月9日、午後7時 近藤、伊倉、山崎、堀内、 談話室 荻野、野 村石、

1、書評委員会の件 第一回書評委員会の報告―近藤 「山岳」覆刻の件

・第一年第二号も三百部覆刻の予定 ・希望者は三月末までに現金を添えて

3、海外遠征資料の件 ・第二号は四月上旬発行の予定 申込んでもらう。

・現在ルームにある分はリストを作成 する(堀内)

5 4、部報会報の件 欠号の分は購入する姿勢をとりたい 「山岳図書を語る夕べ」

当日はテープレコーダーに吹き込む

山岳」復刻版

岩永

信

委員諸君の労に多大の謝意を表するも ることが出来て、非常に心嬉しく図書 あり、早速申し込み、二月二日入手す 私もかねてから入手希望切なるものが 出版の予定で発行さるることに決定、 暇をさきて、絶大なる御尽力により、 表せられて以来、多忙中のところを寸 のである。 本年一月初旬「山」第三一九号に限定 一二号に「山岳創刊号」復刻につき発 日本山岳全図書委員会が「山」第三

る次第であるが、私が日本山岳会入会 たるところ、幹事の決議を経て、大正 氏の推薦を得て、入会申し込みをなし 希望をもって北沢基幸、忽滑谷安美両 七年九月八日に入会承認を得、 古いことを申し述べ甚だ恐縮に存じ

で製本は致さざるもほとんどの「会報」 大震災および昭和の大東亜戦争におい 章第六一一号の送付を受け、爾来関東 と共にだいたい保存しておるのであ 至る一九七〇年発行の第六十五年号ま まで保存致しておるのである。また日 り、後「山岳」第十四年一号より三号 本山岳会発行の機関誌「山岳」も正規 において会員章変更議決せられ、第六 ても戦災を免かれ、大切に保管致しお に第十三年一号より交附を受け現在に 二八号の新番号の会員章を今日に至る

次第であった。若年のころ私も北沢、 変遷とは申せ隔世の感があり、ただ山 びたびたずねて「山岳」その他を閲読 忽谷両君の指導により両君の山房をた よび志村烏嶺氏著「千山萬岳」外山岳 せられたように、小島烏水氏著「日本 心おどらせるものがあった。 し、日本にもこんな美景があるのかと に関するものは「山岳」に頼る外ない 十指を数えるほどしか僅かで、時代の アルプス」(全四巻)「日本山水論」お 初期においては先般藤島敏男君が言明 会発売の山岳写真集「高山深谷」など 山岳書の出版も明治、大正、昭和の

他に必要なものがあれば、何時でも借 なってしまったのであった。その後忽 なる美しき写真と真心こめたるすばら 用出来るものと思ってそのままに過し し込まれたので必要と思われた第四年 滑谷君が "君がそんなに山が好きなら 浜開港記念館において故辻村伊助氏の しい話を聞き全く夢中に山のとりこと 「山岳」を全部貸してあげよう』と申 「スイスの山旅」の講演会にて当時稀 一号から第十二年までを借用し、また たまたま関東大震災前のさる夜、横

災で在横浜事務所の辻村さんのフィル ムその他、また北沢君の製本済の「山 ところが大正十二年九月の関東大震

谷君の蔵書も一瞬にして灰烬に帰して 岳」その他貴重なる山岳書および忽滑 次第である。 弁を要するまでもないが感激に堪えぬ から大体承知しておるのでいまさら駄 出来たのは望外の至りで、内容は以前 度創刊号復刻の議が熟しようやく入手 半ば断念していた次第であったが、今 第四年までのものはほとんど見当らず 補充に当ていたが「山岳」創刊号から であった。爾来古本屋を漁って欠号の しまったことは残念に堪えない痛恨事

と思うものである。今後とも何分よろ しく御配慮を御願いする次第である。 希望するは敢て私一個人に限らぬもの する次第で、願わくば引き続き続刊を ることが出来たのは心から嬉しく感謝 私の蔵書棚に貴重なる一書を加算す (四七、二、二九)

会 務 報

三月理事評議員会

山下、今井監事 坂下、大森、中島各理事、 会長、中屋、藤井、山崎、野上、板倉 ▽出席者 三田会長、成瀬、吉沢副 (9日午後6時本会ルーム) 金坂評議員

野県関係への変更届は早乙女氏に依頼 ら三十坪に縮少することにし、新しく し九分通りは見込みは立った。 興会、文部省へ提出、また文化庁、長 三日新しい設計図を環境庁、自転車振 設計しなおすことになった。二月二十 と会談、山岳研究所の規模を五十坪か 環境庁自然保護局企画調整課の児玉氏 、松本営林署への届は高山氏にお願 村山、丹部および設計者山本教授が ・上高地山岳研究所の件(山崎)

藤泰安氏を通じ、自転車振興会からの ところが本日文部省早川課長から加

を調査することにしたい。 どの力をかりたい。この件は至急事情 ばならないことになった。今井田氏な 絡があり、至急関係方面へ手を打たね 部省で復活要求をしておいた、との連 交付金はゼロと査定されていたので文 ・岩手支部設立の件

され、ルームで吉沢、山崎の二名と会 長名で祝電を打つことにしてある。こ 日盛岡で行なわれるが、本会からは会 めることにしたい。発会式は三月十一 談、支部のあり方などについて懇談し 二月十九日盛岡から佐藤敏彦氏が上京 た。これをもって支部設立を正式に認 二月の理事評議員会で内定されたが

したい。この件了承。 があるので三月十三日面接をして決定 山形市へ帰ることになったので、その 後任を至急求めている。二、三候補者 池内みよ子氏が一身上の都合で郷里 ・図書職員の件

この件了承。 前日二十一日午後六時から有楽町ニュ ー東京六階成溪クラブで行ないたい。 定していたが、都合で中止し、総会の する。支部長会議は最初如水会館を予 後三時から本会ルームで行なうことに 本年度の会員総会は四月二十二月午 ・会員総会の件 (中屋)

刷所への支払いは二百五十万千六百円 会へ引き取ることも考慮している。印 茗溪堂で売れ残ったものは二百部ほど 茗溪堂で一般書店を通じ発売したい。 で会から百二万円借り入れた。この件 贈呈用として残り千部のうち五百部は 三月一日千五百部作った。五百部を ・エベレスト報告書の件 (中島)

三月三日銀行クラブで授賞式があり ・秩父宮学術記念賞の件 賞金五万円、 副賞金十万

は本日三田会長とともに行って贈って 式を行なった。毎日新聞社、NHKへ 本徽章寄贈のエベレスト・メダル贈呈 円をいただいた。式後本会ルームで松

ルーム日誌 (47年2月)

3日(木)理事評議員会 2 日 (水)学生部

9日 5日(土)書評委員会 (水) 図書委員会

15日(火)第二八一回小集 (火) 第二八一回小集会「エベレ

22日(火)学生部委員会 21日(月)日本山書の会 24日(木)山岳図書を語る夕べ

25日(金)青年懇談会 海外連絡委員会

29日(土)山形大学山岳部O・B 二月中来室者 三九〇名

四九四一 四逝去 河内 昭和四六・七・

スト見物」川喜田壮太郎氏

池内みよ子嬢送別会

出席し盛会であった。 ームで送別会が開かれた。会員多数が れることになり、三月二十八日本会ル ほど郷里山形市へ帰られるため辞任さ 本会図書職員池内みよ子さんはこの

周布真理子さんが四月一日から勤務さ れることになったのでよろしく。 なお後任には会員周布光兼氏の長女

集は坂下理事にお願いすることになっ た。よろしく御援助下さい。(山崎) あとがき 来年度の会報「山」の編

昭和四十七年四月十日発行 東京都千代田区神田錦町

三一三向井ビル

発行所 法同日本山岳 編集代表 Щ 崎 安 治 会

東京都港区赤坂一丁目三番六号 振替口座東京四八二九番 (293) 七四四

レスト見物」のスライドが上映され盛 ルームで会員川喜多壮太郎氏の「エベ 小集会第二月十五日午後六時から本会

第二八一回小集会

第二八一回

会であった。

第二八二回小集会

第二八二回

印刷所

あった。 最近のヒマラヤの映画を上映、盛会で ルームで会員高橋照、新島義昭両氏の 小集会は三月十五日午後六時から本会

深田久彌氏を偲ぶ会

々木光子両嬢の独唱でにぎやかな会を ぞれ故人の面影を語り、山口節子、佐 男、井上靖、藤島敏男氏ら多数がそれ が故人の遺影に向かって乾杯、永井竜 信行氏の司会で進められた。三田会長 土関係など二百人近くにおよび、近藤 れた。出席者は山岳、文壇、出版、郷 一日午後六時から国際文化会館で開か **久弥氏を偲ぶ会が、一周忌の三月二十** 昨年三月二十一日逝去された故深田

山の本

東京都千代田区神田駿河台2の1・Tel(291)9442振替東京24723

ブータン感傷旅行

-〈菊判280頁〉定価980円 森林・草原・氷河

加藤泰安著

〈A5判482頁〉定価1,500円

すこし昔の話

<四六判400頁>定価1,200円

遠い山・近い山

望月達夫著 〈B6判334頁〉定価960円

山の古典と共に 大島堅造著

<四六判280頁>定価1,500円

雪山・藪山 川崎精雄著

〈A5変型判340頁〉定価1,200円

雪原の足あと 坂本直行著

〈B5判206頁〉定価2,800円

シプトンの自叙伝 未踏の山河

大賀二郎· 倉知敬訳

〈A 5 判440頁〉定価1,900円

山日記1972年版

日本山岳会編

<A 6 判368頁>定価750円

	総索引	1,000円
小 丘	65年	2,000円
山岳	64年	2,000円
口士山丘合領	63年	2,200円
日本山岳会編	62年	2,000円
〈A5判〉	61年	1,800円

国立公園カレンダー 国立公園協会編

<A5判リング綴リ>定価960円 屋久島・美しい豊かな自然 赤星 昌編

〈B6判202頁〉定価480円

山で唄う歌1集・2集 戸野昭·朝倉宏編

〈A6判126頁〉I集240円·2集280円

日高山脈

北大山の会編

〈菊判362判頁〉定価2,200円

山に忘れたパイプ 藤島敏男著

〈菊判584頁〉定価2,500円

日本の山旅

足立源一郎スケッチ帖 〈A変型208頁〉定価3,600円

アンナプルナ日記

京都大学学士山岳会編 < A12取変型判170頁>定価1,200円

登頂ゴジュンバ・カン

〈A5判350頁〉定価900円

キンヤンキッシュ1965

東京大学カラコルム遠征隊編 〈B5変型判220頁〉定価3,000円

登山・スキー用具専門店

●買い易い 山の店

山の店

大阪市北区梅ケ枝町101 TEL. 06(362)5736

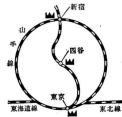
●北へ来たら

●フレッシュな 山の店

山の店

山とスキーの専門店

東京都文京区湯島3丁目38-9 片桐 盛之助 電話 東京(831) 1794·6680番



四 谷 店 東京都新宿区三栄町三番地 TEL (351) 7432-1912

新 宿 店 新宿ステーションビル四階 サービスショップ

八重洲口店 東京都中央区八重洲二の五 TEL (271) 1560 · 8575 T E L (352) 6 5 6 4 日本信販加盟店



山友社をかはこ

なにろ人間ですからかれたども、どうこも 長任はもっています とうしても必要なもの そして公山かすから をころえて売る たない方が

かたる("シンテイでぶゃ 28128456 中央区・八重ス401

秀山莊

登山とスキー具



東京都中央区日本橋通2-1 PHON; 271-7686 · 1718

